

第1回  
農検栽培  
コンテスト  
活動事例集

2019年2月  
日本農業検定事務局





# 目次

## 参加校栽培記録シートまとめ

### 《グランプリ 日本農業検定賞》

・ 世田谷区立砧中学校 Ms.Radish . . . . . P3

### 《審査員特別賞》

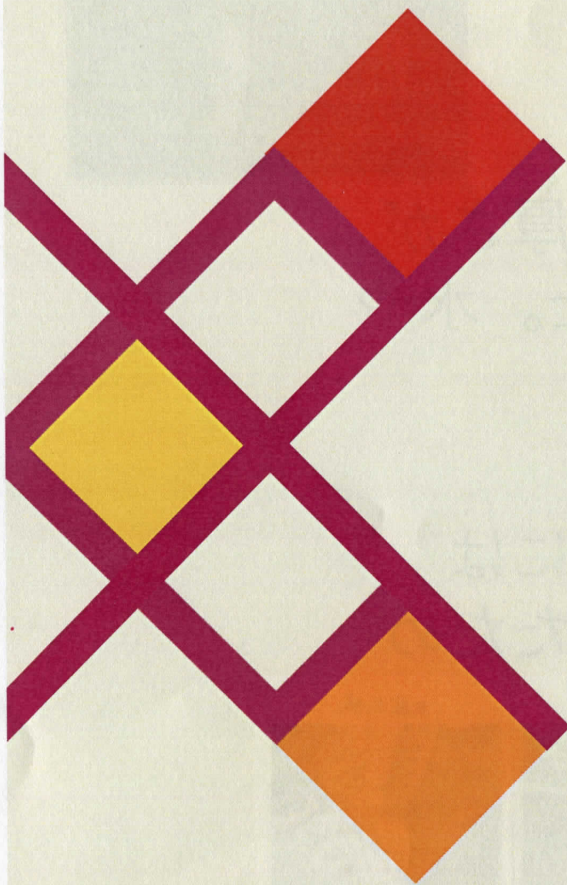
・ 千葉県立特別支援学校流山高等学園  
くままる . . . . . P6

ベジタブルズ . . . . . P9

日本の農業について考える . . . . . P12



(世田谷区立砦中学校)



世田谷区立砦中学校



Ms.Radish





## 栽培した作物：大根(大蔵大根、青首大根)

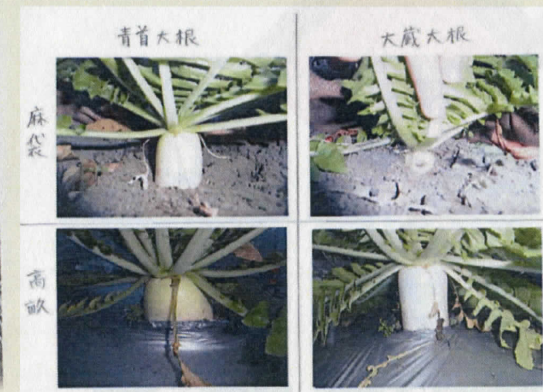


### こだわり

地植えと麻袋の生育の仕方を比較。地植えは畑の土の厚さが30cmと限られているため、20cmの高畝にして栽培した。水やり等の他の条件は両栽培方法ともにそろえた。

### 気づき

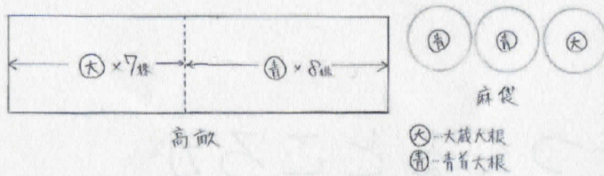
麻袋は畝に比べて水はけが良すぎるため、大根の栽培には適していないということが分かった。今年は暖冬だったため大根の生育が良かった。





# 栽培記録(抜粋)

〜畑の図〜



10月4日(休)

種をまいてから3日。高畝、麻袋共に2種とも発芽していた。水をやした後、芽の計測をした。



左は麻袋の中の写真。右と左(畝)は青首大根、中央は大蔵大根。芽はそれぞれ約3〜5cm。

10月11日(用)

種をまいてから1週間。水をやした後、芽の計測をした。



農林栽培コンテスト応募用紙

10月4日より明らかに子葉の大きさが大きくなっている。また、本来しぼんだ写真はどの所も大蔵大根。青首大根も同じ様子。



左が麻袋で栽培した青首大根。右が畝で栽培した場合。



左が麻袋で栽培した大蔵大根。右が畝で栽培した場合。

〜栽培失敗例〜



左は、畝で栽培した大蔵大根。土の耕し方が不十分だ。そのため、土の中に残っていた石や土の塊に当たり、うまく生育できなかった。地植えで栽培する際は特に、よく土を耕す必要があることが分かった。

農林栽培コンテスト応募用紙

## 日本の農業について考える

・みんなで日本の農業について考えてみましょう。  
日本農業検定のテキストを読んで感じたこと、これからの農業について新しい提案など、下の項目について200文字程度でまとめてください。(文字の他イラストなども可)

○農業についてのイメージを教えてください。  
農業を部活で始めるまでは重労働や手や洋服が汚れるなどの悪いイメージが強かったです。しかし、栽培部を始めたことで、野菜を収穫する喜びや楽しさを伝わり、良いイメージの方が強くなりました。私たちが部活を始めるまで、活動場所である厚土庭園で芝生と雑草がはびこり、荒れ放題でした。それを皆で開墾し、野菜を育てられるまでに、土壌を良くしたことで、畑への愛着も湧くようになりました。畑に愛着を持つことで、農業自体の印象が良いものになりました。

○食料自給率についてどのように考えましたか。また、自給率向上のためにどのような取り組みが必要だと考えますか。  
私には、日本の食料自給率は他の国と比べてとても低く、外国からの輸入品に頼りすぎていると考えました。そこで、自給率向上のために、輸入農産物に勝てるような、安全で安く、おいしい高品質なものを多くの人に作ってもらい、国産のものを気軽に買える環境づくりに努めたいと思います。なので、いま減っている農業人口を増やすために、土壌を無料提供するなど、国からの補助などがあると良いと思いました。

○日本農業検定テキストや日ごろの活動を通して、これからの農業についてどのように発展していけばいいと考えますか。  
農業は、上記に述べたように、重労働や悪いイメージが定着しているので、トラクターなどを無人化し、少し負担を減らし、誰でも農業を簡単に始められる工夫が必要だと思います。日本の農産物の安全を生かして、外国に輸出し、日本の農業を活性化していくのも良いと思います。この他にも、私たちが農業を体験することで、農業に興味をもちました。同様に他の学年にも栽培部を設立し、生徒の農業への関心を高めることが将来につながると思います。

農林栽培コンテスト応募用紙



(株) 誠信堂

## 審査委員会コメント

みなさんの活動場所は屋上ということで、畑をつくるところから始めて野菜ができるまで、とても大変だったことと思います。自らが汗をかくことで、畑や野菜への愛着が湧き始め農業のイメージが変わりとても楽しく活動されていることが伝わって来ました。みなさんのように、農業に関心をもち、楽しんでくれる学生さんが増えることを願っています。

今回、大根の栽培記録をとっていただきましたが、地植えと麻袋での生長比較がとても良く観察されていました。ペットボトルなどでも大根栽培ができるようなので、色々とチャレンジしてみると面白いかもしれません。







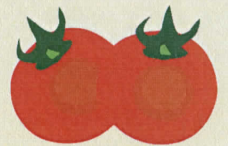
日本の農業について考える





## 農業についてのイメージを教えてください。

- ・ 農業を部活で始めるまでは、重労働や手や洋服が汚れるなど悪いイメージが強くありました。しかし、栽培部を始めたことで、でき上がった野菜を収穫する喜びや楽しさを知り、良いイメージの方が強くなりました。私たちが部活を始めるまで、活動場所である屋上庭園は芝生と雑草がはびこった荒地でした。それを皆で開墾し、野菜を育てられるまでに、土壌を良くしたことで、畑への愛着も湧くようになりました。畑に愛着を持ったことで、農業自体の印象が良いものになりました。
- ・ 野菜を育てる
- ・ 野菜は商品になるので、お客さんに喜ばれるようにする。
- ・ 若い人があまりいない
- ・ 全体的に高齢者が多い
- ・ 服が汚れる、大変





## 食料自給率についてどのように考えましたか。 また、自給率向上のためにどのような取組みが必要だと 考えますか。

・外国産の食料が多く輸入されて日本産の物は減りつつある。食料自給率を上げるためには、自分達が日本産の物を買って、農家もおいしい食べ方や調理方法などをアピール、努力する必要があると感じた。

・私たちは、日本の食料自給率は他の国と比べてとても低く、外国からの輸入品に頼りすぎていると考えました。そこで、自給率向上のために、輸入農作物に勝てるような、安全で安く、おいしい、高品質なものを多くの人に作ってもらい、日本人が国産のものを気軽に買える環境づくりに努めるべきだと思います。なので、いま減少している農業人口を増やすために、土地を無料で提供するなどの、国からの援助などがあると良いと思いました。

・野菜を宣伝する





## 日本農業検定のテキストや日ごろの活動を通して、 これからの農業についてどのように発展していけばいい と考えますか。

・ 農業は、重労働など悪いイメージが定着してしまっているので、トラクターなどを無人化し、少し負担を減らし、誰でも農業を簡単に始められる工夫が必要です。また、日本の農産物の安全性をアピールして、外国に輸出し、日本の農業を活性化させていくのも良いと思いました。

この他にも、私たちは農業を体験することで農業に興味をもちました。同様に他の学校にも栽培部を設立し、生徒の農業への関心を高めることが将来につながると考えました。

- ・ 体験の人を増やす
- ・ 若い人にも農業に興味をもってほしい

